実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■活動概要

助成年度	令和７年度
助成団体	一般社団法人ワールドスケートジャパン
事業細目名	スポーツ教室、スポーツ大会等開催（スポーツ）
事業名	第 8 回日本スケートボード選手権大会ストリート種目
助成金額	6,611,000 円

令和７年度スポーツ団体スポーツ活動助成（スポーツ教室、スポーツ大会等開催）を活用し、一般社団法人ワールドスケートジャパンが開催した「第 8 回日本スケートボード選手権大会ストリート種目」の実施状況について調査を行いました。

本大会では、スケートボードのストリート種目（男女）が実施され、各部門の上位 3 名が表彰されました。2026 年度ワールドスケートジャパン強化指定候補選手の選考対象大会、且つ第 20 回アジア競技大会（愛知・名古屋 2026）の代表選手選考大会にも位置づけられる大会です。

ストリート種目とは、ハンドレールや縁石などの障害物を活用し、街中のストリートを模したコースを自由に滑走しながら、独創的な技の完成度で得点を競う競技です。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京 2020 大会」という。）では、初めてスケートボード競技が採用され、男女ともに日本代表選手が金メダルを獲得したことで広く注目を集めました。

日本選手権は代表選考を兼ねた公式な競技会であるため、イベントで実施するような演出は行わず、競技そのものに特化した大会として実施しているそうです。

■助成の意義

くじ助成によって大会運営の基盤が支えられており、 “選手ファースト”を重視した運営・環境整備が実現しているとのことです。例えば、屋外開催では天候や気温の変化が選手のコンディションに大きく影響しますが、助成により選手専用の待機テントを設置するなど、選手が快適な環境で出番を待ち、体への負担を軽減させ、競技に臨む体制を整えることができているそうです。

■事業効果を高めるための取り組み

メーリングリストや SNS を活用することにより、天候の影響でスケジュール変更が生じた際も、迅速かつ一斉に情報を共有できる体制を整えたとのことです。

また、会場内にはスコア速報の QR コードが掲示されており、選手や観客が自身のスマートフォンからリアルタイムで競技結果を確認できる仕組みが導入されていました。

■その他

競技場については、国内に国際規格を満たすコースが限られており、屋外施設は天候の影響を受けやすい一方、屋内施設は国内に 2 か所程度しかないということもあり、会場の選定に苦労したとのことです。

■所感

会場であるライブドアアーバンスポーツパークは東京 2020 大会で使用された競技場ですが、その後観客席が撤去されたため、本大会では座席を設けず、基本的に競技場周辺からスタンディング形式での観戦となっていました。

調査当日は女子予選を視察しましたが、出場選手がお互いに応援や励ましの声をかけあう場面が多く見られ、オリンピックメダリストも出場するハイレベルな大会でありながら、和やかな雰囲気も感じられる、スケートボード競技ならではの日本選手権となっていたように感じました。

スケートボードは東京 2020 大会およびパリ 2024 大会で日本人選手がいずれも金メダルを獲得するという快挙を遂げ、国内外で大きな注目を集めています。今後も競技力の向上とともにスケートボードの魅力がさらに広く伝わり、競技人口の拡大や次世代育成につながっていくことを期待しています。

（令和 7 年 11 月 1 日往査）

（写真）第 8 回日本スケートボード選手権大会ストリート種目の様子



